

多職種連携論

- 医療倫理 -

*これらのシナリオに登場する薬剤名は一般名、商品名を問わず1例です。
ご利用の際は、利用される方のご判断で薬剤名変更等をお願い致します。

課題：下記の事例に関してジョンセンらの四分割表を参考にしつつ、各職種の視点からの意見を抽出し、議論の上で発表しなさい。

上野信樹さん、56歳。StageⅣの大腸がん（肝臓に複数の転移あり）に対し、化学療法が計画されている。入院時に薬剤師が内服を確認したところ、高血圧に対するアンジオテンシン受容体阻害薬以外に、市販の「抑肝散加陳皮半夏」という漢方薬を内服していた。薬剤師が内服状況を尋ねると「がんに対して効果があると週刊誌に書いていたので、ビタミンCと漢方薬を市販で購入し内服しています。」とのことで、1日当たりその漢方薬を50g、ビタミンCを500mg内服しているとのことであった。

看護師が入院後のバイタルサイン測定を行う際に、上野さんは「まだまだ働かないといけない年代で、何としてでも生きてみたいです。可能性のある治療は何でも行いたいのでなんでも飲んでいきます。化学療法中もこれらの薬剤を内服したいと思います。ただ、最近は疲れやすくて眠気が強いです。」ということであった。

担当医師は、5 フルオロウラシル(5-FU)を主体とした化学療法を計画していたが、看護師、薬剤師から、上野さんの思いや内服状況の報告を受け、これらをふまえて上野さんの治療・支援計画を立てることになった。

質問

Q1 がん治療における漢方薬は具体的にどのように使用されることが多いのでしょうか？

Q2 上野さんが治療において直面しているリスクはどのようなものがあるのでしょうか？

Q3 上野さんに対する今後の支援として、医師、薬剤師、看護師が協力してできる支援にはどのようなものがあるのでしょうか？

※ ジョンセンらの四分割表 — Jonsen, A.R., Siegler, M., Winslade, W.J. (2006): 臨床倫理学 第5版: 臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ. 赤林朗, 蔵田伸雄, 児玉聡 (監訳), 新興医学出版社, pp. 13, 261-3 参照。